

Deutschland

D Nr.:3/2006 Juni/Juli € 2,70

ドイツ 世界経済の ハブ

休暇の国——ドイツを発見・経験・楽しむ



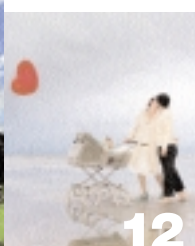
6



14



20



12



54



18

特集：

ドイツ——世界経済のハブ。数々の革新的な製品を生み出し、物流・見本市業界が好況に沸くドイツ。輸出額で世界一を誇る貿易大国であるとともに、グローバル・プレーヤーとして世界経済に重要な地位を占めるドイツの現況をレポート

40-65



62

未来のエネルギーミックス 6

増大するエネルギー需要にどう対処するか。暖房に蓄熱や地熱を利用するパッシブハウスを紹介

ニュース 政治 12

EU・ラテンアメリカ首脳会議／国籍取得／両親手当

ダニエル・ケールマン 14

19世紀のふたりの偉大な自然科学者を主人公とした小説がことし最高のベストセラーに。その魅力・秘密はどこにあるか

ニュース 文化 18

カスパー・ダビット・フリードリッヒ回顧展／W杯テーマソング

休暇の国 新しいトレンド 20

北海とアルプスの間に広がるドイツには、休養ができ、体験や発見を楽しめる数々のスポットがある。「休暇の国」ドイツの魅力、最新トレンドを紹介

日本マガジン 31

レポート & ルポルタージュ

輸送・金融・物流・見本市 40

ニューエコノミーとオールドエコノミーの接点にあり、目覚ましい成功をおさめる経済分野とドイツの位置

ドイツ経済は、いかにグローバルか 54

開かれた世界市場の恩恵を受けるドイツ経済について、ドイツ商工会議所連合会のルートヴィヒ・ゲオルク・ブラウン会頭に聞く

グローバルネットワークの重要拠点 58

ドイツを重要拠点にのし上げた要因は何か、輸出、交通インフラ、インターネット利用など多角的に探る

スカイシェフ 62

ケータリング会社LSGスカイシェフは、一日に4万2000食を製造するロジスティックスの達人。その一日をレポートする

読者の声、発行案内 66

DEUTSCHLAND W杯懸賞クイズ

2名の当選者が決まりました！

2006FIFAワールドカップのオフィシャルパートナー契約を結んだコンチネンタル社が、メディアパートナーの「Deutschland」誌と共同で主催した「W杯ビッグ懸賞クイズ」には、世界中から27万5000通もの応募がありました。熱烈な関心に、お礼を申し上げます！ 1等賞の、1週間のドイツ旅行と06年7月1日にゲルゼンキルヘンで行われる準々決勝の観戦チケットは、グアテマラとトーゴの回答者各1名が射止めました。おめでとうございます！ 2等以下の賞品は、数週間以内に当選者のお手元にお届けします。クイズの正解は、以下のとおりです。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
D E U T S C H L A N D



当選者のお名前

1等賞 (W杯観戦チケット)

- Paulo Vladimir Hernández Hernández, グアテマラ
- Komi Alotsi Amou, トーゴ

2位～5位 (ドイツ写真集)

- Iván de Jesús Ayala, ホンジュラス
- Stanislaw Massalaw, ウクライナ
- Guro Reinhardt, ノルウェー
- Isuneko Takasaki, 日本
- Yang Guang, 中国
- Fusayo Ite, 日本
- Belgaïd Kahina, フランス
- Kiril Kirov, ブルガリア
- Ng´Andwe Laneck, ザンビア
- Georg Ludwig, ニュージーランド
- Boureima D. Maiga, マリ
- Anatoli Maisiuk, ベラルーシ
- Anneh Gregory Ndonatou, カメルーン
- Paraskevas Paraskevas, キプロス
- Robbie Pearson, イギリス
- Manolis Plumidis, ギリシャ
- Farzaneh Rasouli, イラン
- Sebastiano Rizzi, ルクセンブルク
- Randy Rodas, グアテマラ
- Emilio Sanchez Cabezas, スペイン
- G. Sashike Sauinde Siresane, スリランカ
- Hadj Hmida Slim, チュニジア
- Martina Smoliková, チェコ
- Lauren Tapio, フィンランド
- Sharon Vieira Alves, ブラジル

6位～10位 (W杯アートポスター)

- Ranjit Dhungana, ネパール
- Bianka Diaz Señan, キューバ
- Ghazanfar Ali Ikram, パキスタン
- Dr. A. M. Salyani, ケニア
- Ankje Tol, オランダ

11位～40位 (W杯サッカーボール)

- Hudajberdijew Batyr, トルクメニスタン
- Ricardo Bernal, 米
- Biman B. Chakrabarty, インド
- Rehema Cheptai, ケニア
- Alessio Concu, イタリア
- Ieva Bérzina, ラトビア
- Khalid Essafa, モロッコ
- Dominique Gibert, フランス
- Mario González Olivera, ベルギー

41位～70位 (W杯Tシャツ)

- Zenebe Almaw, エチオピア
- Ziad Salem Aqeel, ヨルダン
- Kemdonati Beanan, チャド
- Ali Benchohra, アルジェリア
- Alirio Benvindo Fonseca, カボベルデ
- John Berkimas Samvura, ルワンダ
- Ongole John Charles, ウガンダ

- Artaud Charles, 米
- Gunther Cienciola, カナダ
- Juventine Echau, ウガンダ
- Pedro Esturillo Roman, アルゼンチン
- Teferi Guta, エチオピア
- Li Haiying, 中国
- Jeanlouis Hilaire, ハイチ
- Swetlana Korosteljewa, ロシア
- Esa Kylä-Kause, フィンランド
- Yeung Lai Fong, 香港
- Carlos W. Maisonnave, ウルグアイ
- Claudia Maldonado Caballero, チリ
- Nicolás Montania, パラグアイ
- Lawrence Ndaferanjih Blandy, マラウイ
- Dympria O´ Sullivan, アイルランド
- Elin Ottosson, スウェーデン
- Heronimus Pangemanan, インドネシア
- Ricardo Serrano Tórrez, ボリビア
- Geberson da Silva Brito, ブラジル
- François Takonta Longa, トーゴ
- Kakali Tikader, バングラデシュ
- Lubor Vitek, チェコ
- Ze´ev Yagodnik, イスラエル

71位～100位 (W杯マフラー)

- Souleymane Abass, チャド
- Marco Aires, ポルトガル
- Bemazava Harold Amine, マダガスカル
- Locoh Azangoun Yves, トーゴ
- Jayashree Balaji, インド
- Leni Besina, ロシア
- Khalid Bouzagou, モロッコ
- António Lucas Castigo, モザンビーク
- Gharbi Driss, チュニジア
- Amr El Sayed Aly El Desoky, エジプト
- Hector José Espinoza Cortes, チリ
- Maria Jose Esteban Hernandez, スペイン
- Nigel Foster, イギリス
- John Alexander Galindo, コロンビア
- Mehmet Gavusoglu, トルコ
- Andrzej Ginter, ポーランド
- Marie Kalokoh, モーリタニア
- Lajos Kovács, ハンガリー
- Oksana Maksimthyk, ウクライナ
- Fernando Meijide, ウルグアイ
- Ikutaro Miyamoto, 日本
- Ana Cristina Navarrete Ortiz, メキシコ
- Keld Nielsen, デンマーク
- Kabore Poussi, フルキナファン
- Lydia-Linda Rahmoune, カナダ
- Dr. Ednaldo Rodrigues Mota, ブラジル
- Kresentia Editha Septianingtyas, インドネシア
- Sascha Symonenko, ウクライナ
- Debebe Tafesse, エチオピア
- Geng Weiwei, 中国



環境面でも洗練を極めた、ノーマン・フォスター脚設計のベルリン自由大学図書館



未来のハイテクコンビ：省エネ建築と再生可能エネルギー電力は、効果的な温暖化対策の2本柱

未来のエネルギーミックス

世界のエネルギー需要は、とどまることなく増え続けている。現在のエネルギー消費量は70年代初めの2倍近くに達し、パリの国際エネルギー機関の試算によると、対抗措置をとらなかった場合はさらに20年までに現在の3分の1増加するという。ドイツでは暖房に蓄熱や地熱を、発電に太陽光を利用するパッシブハウスの人気が高まっているが、これはエネルギー消費抑制の有力な手段となろう

文 ライナー・シュトゥンプフ

第2弾

熱画像診断：赤の高温部分は断熱が不十分、青い低温部分は断熱性が高い



サーモカメラは小さな熱のロスも見逃さず、その場ですぐ建物の弱点を発見する

Industrie Thermografie Kroll (2), picture alliance/opa, Reinhard Goerner/future, Nordex

省エネ建築—— 人体が発する熱も利用

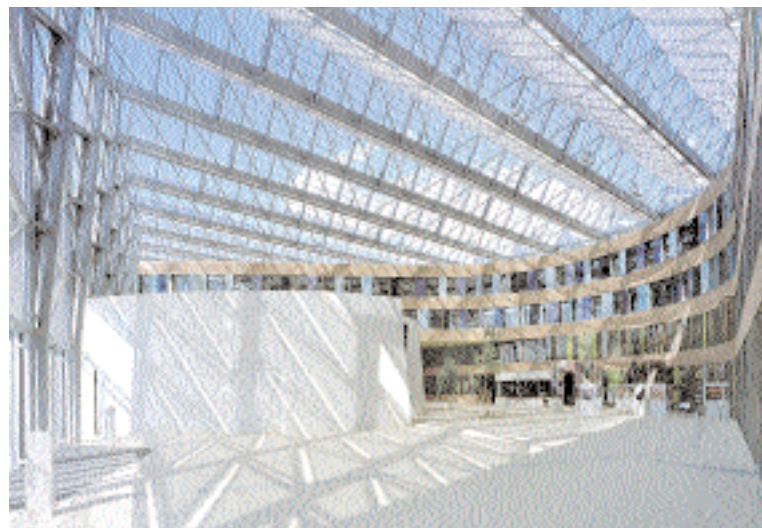
「エネルギー危機ドイツを見舞う」——これはメディアが好んで取り上げるシナリオだが、ドイツ消費者センター総連盟（vzbv）のホルガー・クラヴィンケル建築・エネルギー・環境部長に言わせれば「ナンセンス」の一言である。現在、エネルギーはすでに必要以上に生産されており、万人がvzbvの助言に従うなら70以上ある1,200メガワット級発電所のうち約40が不要となり、環境負荷を減らすとともに「危機」を心配する必要もなくなるというのだ。クラヴィンケルは、その論拠となる

高い環境性と建築としての個性を備え、快適な住環境と高効率のエネルギー利用を約束するパッシブハウスは、形といい大きさといい、じつに多様性に富む

いくつかの計算例を挙げた。例えばドイツのすべての既存家屋に、新築家屋に義務づけられていると同等の断熱性をもたせるならば、国内総発電量の半分に当たるエネルギーが節約される。

けではない。「エネルギーの有効利用に成功するなら、寿命を迎えた老朽発電所を閉鎖することも可能になる」（ドイツ環境支援協会のゲルト・ローゼンクランツ政策部長）、「政治家は、新たなエネルギー源を血眼になって探す代わりに、エネルギー節減について考えるべき」（ドイツエネルギー機構のシシュテファン・コーラー事務局長）など、同じ趣旨の発言をする専門家は多い。

日常生活の中でこうした考え方をすでに実践しているのは、パッシブハウスに暮らす何千という人々である。この工法による建物では通常、大人ふたりの身体が発する熱以外の暖房源は不要で、人間が暖房機代わりになると聞くとサイエンスフィクションの話かと一瞬耳を疑う。だが、要は外壁の高効率断熱、三重窓、屋根に設置された太陽熱コレクター、自動換気システムといった多様な省エネ技術をモジュールのように組み合わせ、最大の効率を実現しているに過ぎない。自動換気システムの心臓部に当たるのは、室外へ出ていく空気から回収した熱で室内に取り入れる空気を予め室温まで温める熱交換器だ。寒冷地域では、環境にやさしい地熱暖房システムもさらに付加的に利用される（10頁参照）。パッシブハウスのエネルギー消費は、低エネルギーハウスよりも80パーセント、従来工法と比べるとじつに90パーセント以上も少な



また、暖房設備のすべてのポンプやバルブを圧力センサーを使って制御し、ボイラーから発生する熱の利用効率を最適化するだけでも4.5基の発電所が不要となる。さらに、万人が省エネランプを使用した場合（発電所0.5基分）、暖房機の老朽ポンプを最新型のものに交換した場合（発電所1基分）など、節電の例は続く。こう主張するのはクラヴィンケルだ

いため、灯油価格の値上がりに悩まされることもない。1平方メートル当たりの年間灯油消費量に換算すると、パッシブハウスは1.5リットル未満、低エネルギーハウス——この環境基準は、02年からすべての新築家屋に義務づけられている——は8～10リットル、断熱処理のされていない老朽家屋では最高で40リットルとなる。いまドイツで1年間に建設されるパッシブハウスは、およそ6,000戸。従来工法よりもまだ割高ではあるが、コストの差は10パーセント程度まで縮まっており、原油価格の高騰により償却期間が短

縮されるため、今後は一段と普及に拍車がかかるとみられる。

エネルギーを大幅に節約する建築は、連邦政府が助成プログラムを組んでいることもあって、大きな将来性をもった市場となっている。助成は新築のパッシブハウスばかりでなく既存建築の近代化措置も対象で、例えば古い暖房設備を更新すると同時に建物の断熱工事を行なう場合、政府系の復興金融公庫（KfW）から低利の融資を受けることができる。利率は、エネルギー節約の度合いに応じて低くなる。既存住宅が約4,000万戸あることを考えると、この分野のエネルギー節減の潜在的可能性は大きい。パッシブハウスに使われるような断熱材や窓は、老朽建築における灯油消費を1平方メートルあたり3リットルまで抑制する効果がある。ルートヴィヒスハーフェンやマイン河畔フランクフルトの住宅建設公社が、古い住宅を「近似的パッシブハウス」に改築



したところ大きな反響があり、物件の数をはるかに上回る賃貸希望が殺到した。ことしの夏からは家を借りたり買おうとするひとが、所有者からいわゆる「エネルギーパス」の提示を受ける制度も全国でスタートする。物件の遮熱・断熱性などを明示した証明書提示の義務づけにより、エネルギー効率が賃貸や売買の場面で幅を利かすことになるだろう。

温暖化防止のための 法律 EEG



クリーンエネルギー優先：再生可能エネルギー法は、風力など自然エネルギー由来の電力の最低買い取り価格を保証する

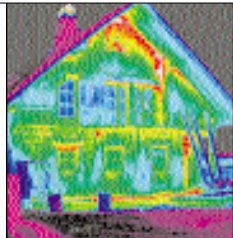
ドイツ産業のなかで、再生可能エネルギーほど成長著しく前途有望な部門は少ない。連邦再生エネルギー産業連盟の試算によれば、

20年までにこの分野で創出される新規雇用は30万に上り、「総額2,000億ユーロの投資が見込まれる」（ヨハネス・ラックマン同連盟会長）。このような目覚ましい発展を可能にしたのが、「再生可能エネルギー優先のための法律」略して再生可能エネルギー法（EEG）にほかならない。電力事業者に風力、水力、太陽エネルギー、地熱、バイオエネルギーによって発電された電力の買い取りを義務づけ、最低買い取り価格を保証するEEGは、法の力によって温暖化対策を推進しようとするもので、再生可能エネルギーが総電力供給に占める割合を10年までに最低12.5パーセント、20年までに最低20パーセントまで引き上げることが目標になっている。

00年に初施行されたEEGは、04年8月に大幅改訂され現在にいたる。改正EEGは、例えばバイオマス電力について、1キロワット時当たり9.5セントでの買い取りを20年間にわたって義務づけている。買い取り価格が最も高く設定されたのはソーラー電力で、1キロワット時当たり最高59.5セント。EEGによる再生可能エネルギー優遇・奨励は、連邦環境省によれば05年には年間、約24億ユーロのコスト増をもたらしたが、ドイツ航空宇宙研究センターとフラウンホーファー・システム・イノベーション研究所の共同研究で明らかにされたようにドイツ社会にとっては意味ある投資といえる。なぜなら、再生可能エネルギー発電を強化することによって同時期（05年）に抑止された損害は、少なくとも28億ユーロに上るからだ。この数値は、再生可能エネルギーおよび化石燃料による電力生産の外部費用（例えば、従来型発電所から発生する有害ガス被害）と比較して算出された。とりわけエコバランスの観点からみたEEGの成果には、目を見張るものがある。すでに03年には、同法によって年間約2,300万トンの二酸化炭素の排出削減が達成されたが、昨年はこの倍以上の約5,700万トンが削減され、20年の1億1000万トンという目標に向けて順調に推移している。この目標が達成された時点から、ドイツは国内産エネルギーへのシフトによって輸入コストを毎年200億ユーロ以上削減できるようになり、再生可能エネルギー奨励政策は真の収穫の時を迎えるだろう。

成長株：ドイツの1次エネルギーミックスに再生可能エネルギーが占める割合は、00年の2.6パーセントから05年の4.6パーセントに増えた。発電の主役は風力だ

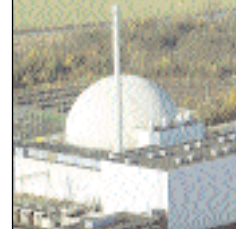
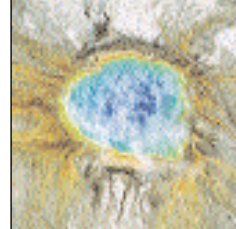
Dieter Leineweber, Jürgen Hebelmann (2), Reinhard Goerner (1), Industrie Thermografie Kroll, Sigurd Steingruber, Reinhard Goerner (1), Jürgen Hebelmann (2), Reinhard Goerner (1), Industrie Thermografie Kroll, Sigurd Steingruber



エネルギー消費拡大に対抗するインテリジェント技術：ドイツで導入の進むパッシブハウスは、地熱を利用することによってガス・石油などによる暖房が不要の暮らしを実現する



地熱



原子力

地熱利用—— 地中から家庭へ

ブランデンブルク地方の小さな町グロス・シェーネベックの近くで、掘削重機を慎重に動かしながらボーリング作業をするエンジニアたちを見かけたら、石油を掘り当てようとしていると思ってはならない。彼らはポツダム地球科学研究センター（GFZ）の研究者



で、「地熱」という地下埋蔵資源を求めてこの地方特有のハイデ（荒野）の下を4,300メートルまで掘り進めているのだ。ことしのボーリング作業で掘削の完了した坑井は、地熱発電に利用される。ゼロエミッションで、日照や風況に左右されず安定した連続運転が可能なこの発電技術は、再生可能エネルギーのなかの新しいスターと目される。地球の内部構造のおよそ99パーセントは1,000度以上の温度をもつことから、地熱エネルギーには途方もない潜在可能性があり、理論上は世界のエネルギー需要を10万年間満たすことができる。連邦議会内の将来技術評価事務局によれば、ドイツの地下にも500年分の国内電力需要を賄えるだけの地熱が眠っている。もっとも、これはあくまでも理論値で、地熱を実際に発電向け、あるいはそのまま熱として利用しようとすると、地理的条件からコストが高くなり過ぎることが多い。地熱自体は“ただ”で遍在しているものとはいえ、温泉が自然に湧き出すアイスランドなどと異なり、地

熱貯留層が地中のかなり深部に分布するドイツでは、採取は技術的にも経済的にも大きな困難を伴うからである。このため、従来ドイツでは地熱がエネルギー供給に占める比率は微々たるものでしかなかった（04年1次エネルギー消費量の0.04パーセント）。だが化石燃料の価格高騰を背景として、また再生可能エネルギー法（9頁参照）のインセンティブ効果もあって、地熱事業はこのところ年14パーセントという成長を示している。昨年1年間だけで、この分野の投資は1億1000万ユーロに上った。現在、稼働中の地熱発電所は出力100キロワットから20メガワットまでの中型のものが24基。03年にメクレンブルク＝フォアポンメルン州で運転を開始した出力1.4メガワットの初の地熱発電所は、11年前に建設された地熱地域暖房施設——年間6,000トンの二酸化炭素削減というエコバランス上、瞠目すべき成果を上げてきた——を拡張したもので、いまでは暖房に加えて約500世帯に電力を供給している。07年以降は、エッセンのエンロー社が2億5000万ユーロ

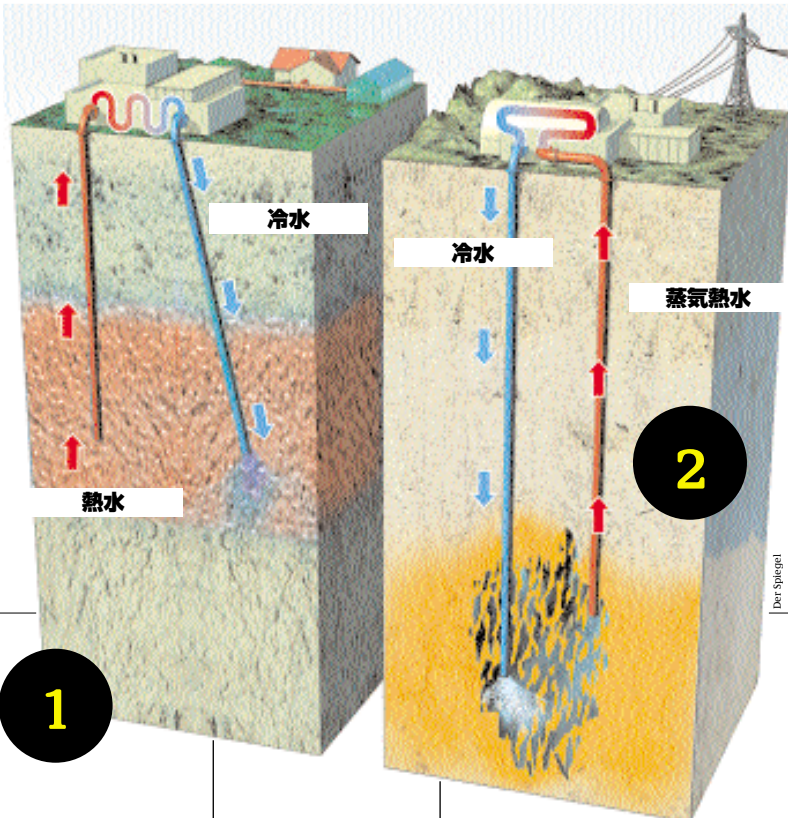
地中から恒久エネルギー

1 熱水利用方式

地熱貯留層に蓄えられた熱水を、生産井からポンプを使って地上の発電所などの施設に汲み上げ、熱交換器に通す。冷却された水は貯留層へ還元する。地上施設に回収された熱エネルギーは、発電や地域暖房などに利用される

2 高温岩体発電（HDR）方式

熱水を含まない高温の岩盤（高温岩体）に高圧の水を注入し、岩盤に人工的な亀裂（フラクチャ）を造る。注入井からフラクチャに水を送り込んで、第2の坑井から蒸気熱水を取り出してタービンを回転させ、その回転エネルギーを発電機に伝えて電気を得る

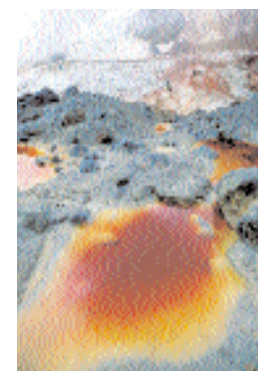


Der Spiegel

Science Photo Library/Agentur Focus, Ralf Krensch/afp, picturealliance/dpa, Natalia Hülger/afp, Paul Langrock/Zenur/afp, Peter Blabroski/afp, Siemens AG Pressbilder/Prespictures (2)

を投じてブランデンブルクに建設する最大の地熱発電所が稼働を開始する予定で（最終出力合計25メガワット）、ドイツの地熱発電事業に新しい次元を開くだろう。

環境にやさしい再生可能エネルギーとしての地熱は、戸建住宅を新築・改築する一般市民の間でも人気が急上昇している。地熱を使



って1軒の家をクリーンに暖房するのは、発電に比べればそれほど難しいことではないからだ。すなわち、いわゆる「地熱ゾンデ」（地中熱交換杭）を最高90メートルの深さまで埋め込み、その中を循環する液体に地中の熱を吸収させて地上に運び、屋内に設置されたヒートポンプに渡す仕組みを作ればよい。1世帯分の需要を満たす自然暖房システムを構築するには1万2000～2万ユーロかかるが、6年で償却が可能である。じつはベルリンの連邦議会議事堂も、深さ約60メートルの地中の熱を利用している。昨年ドイツでは1年間に1万5000基の地中熱暖房システムが設置され、その前の数年間が年1万基程度だったことと比べ大幅な増加を示した。連邦地熱連合会によればことしは3万基に達する勢いで、メーカーは生産が追いつかない状態という。地中熱は高層ビルでも利用されており、マイン河畔フランクフルトにある154メートルのオフィスビル「スカイパー」の熱供給には、47本の地熱ゾンデが使われている。金融都市フランクフルトは地中熱利用のメッカとなりつつあり、08年に完成予定のショッピングセンターや、新築される欧州中央銀行ビルにもこの技術が採用される。

時限操業

ドイツでは遅くとも23年に、最後の原子力発電所が操業を停止する

原子力法改正法（「商用発電向け核エネルギー利用からの秩序ある撤退のための法律」）が施行された02年4月26日は、チェルノブイリ原発事故からちょうど16年目に当たる象徴的な日である。時の社会民主党（SPD）/緑の党連立政権は、この法律に



よって脱原発の基本手順を確定し、新規の原子力発電所建設の禁止と、既存の原子炉についてはいわゆる「標準操業期間」（許可後最長32年）を定めた。キリスト教民主・社会同盟（CDU/CSU）とSPDによる現政権も、立場の違いを超えて前政権の決定を引き継ぐことを連立合意書に明記しており、23年にはドイツ最後の原子炉が操業を停止する見込みだ。

稼働中の17基の原発は、電力総需要の26パーセントを賄う。ほかの電源別構成比率は、石炭および褐炭火力がそれぞれ25ならびに22パーセント、天然ガス11パーセント、再生可能エネルギー10パーセントとなっている。原子力はなおしばらくの間、重要な役割を担うものの、20年には脱原発法の意図通りマージナルな意味しかもたなくなる。反対に重要性が増すのは原子力を代替する再生エネルギーで、連邦環境省によれば14年後には総需要の約25



パーセント、すなわち現在の2倍を超える比率を達成するものと見られる。脱原発に伴ない、何十万年も管理が必要で膨大な処分コストのかかる放射性核廃棄物も発生しなくなる。石炭・褐炭火力発電は将来も最重要電源であり続けるが（20年の推定比率46パーセント）、発電技術の進化によって現在よりもはるかに環境にやさしいエネルギーとなることが期待される。ドイツの電力最大手RWE（本社・エッセン）は、すでに世界初のCO₂フリー大型石炭火力発電所の建設計画に着手している。

最先端のエネルギー技術：シーメンスを始めとするドイツ企業は、世界中に発電技術を供給している。このテクノロジーの中核をなすのは、最新鋭の監視制御システムと高効率発電機

ブレヒトの言葉に感激

特集：ドイツの舞台芸術 Deutschland Nr.2/2006



私は外国語教師で、演劇に大変興味があります。ですから、貴誌の特集「ドイツの舞台芸術」はとてもうれしく思いました。『肝っ玉おっ母』の記事の中に出てくる「戦争は悲しい運命ではなく、人間が作りだした災いだ」というブレヒトの言葉には、ものすごく感激しました。

Ibrahim Nkoumben, カメルーン

大いに役に立つ太陽電池

特集：先端技術 Deutschland Nr.6/2005



国立スラバヤ大学でドイツ語を学んでいます。05年6号の特集に出てきた「太陽電池」の記事を読み、大発見をしました。インドネシアでも電気料金が値上がりしていますが、赤道直下にあるわが国のこと。すべての家の屋根に太陽電池を設置したなら、すべてのひとが電気代を大幅に節約できるのではないのでしょうか。

Yunanfathur Rahman, インドネシア

ドイツの成功を祈ります

特集：2006FIFA W杯 Deutschland Nr.1/2006



ぼくは大のサッカーファンなので、トルコがワールドカップ・ドイツ大会に出場できないのが残念でたまりません。でも、特集「2006FIFAW杯」では、サッカーだけでなくドイツのことも詳しく紹介されていて、とても面白かったです。W杯でのドイツの成功を祈っています。

Burak Tanyildizi, トルコ

DEUTSCHLAND 発行案内

発行所

Societäts-Verlag (フランクフルト・アム・メイン)
編集協力：ドイツ連邦外務省 (ベルリン)

読者係

電子メール：
redaktion.deutschland@fsd.de
電話：++(0)69/7501-4352
ファックス：++(0)69/7501-4361

学生：11,50 EUR、
頒価：2,70 EUR

備考

雑誌『ドイチュラント』は年6回、11カ国語で発行され、世界180カ国で販売されています。筆名入り記事は発行者の意見と異なることがあります。本誌の記事の転載を希望される場合は必ず事前に編集部までご連絡ください。
(redaktion.deutschland@fsd.de)
表紙：Stone/Coney Jay, Photographer's Choice/Banagan, IPS/IFA-Bilderteam GmbH

印刷所

Frankfurter Societäts-Druckerei GmbH
Frankenallee 71-81, D-60327 Frankfurt am Main
私書箱：D-60268 Frankfurt am Main
電話：+49(0)69/7501-0。
www.fsd.de

販売

販売部長：カールハインツ・ホームマン
代理：クラウス・ホフマン
購読申し込み
電子メール：
vertrieb.deutschland@fsd.de
電話：+49(0)69/7501-4274
ファックス：+49(0)69/7501-4502

編集締切

2006年5月19日
Printed in Germany Copyright © by Frankfurter Societäts-Druckerei GmbH 2006
Postal registration number: 7999
本誌は環境にやさしい無塩素漂白紙を使用しています。

編集

編集長：ペーター・ヒンターエーゲ
アートディレクター：ハンス＝ゲオルク・ポスピシル
編集員：マルティン・オルト (デスク)
ジャネット・シャイアン (文責)
ライナー・シュトゥンプ
デザイン：ブルーノ・ポッル
編集助手：イサベル・オピッツ
制作：バルント・ザイベルト、シュテファン・ライヒャルト

広告

カールハインツ・ホームマン
電子メール：
anzeigen.deutschland@fsd.de
電話：++(0)69/7501-4274
ファックス：++(0)69/7501-4502

定価

予約購読1年間 (送料とも)
国内：13,-EUR、国外：16,- EUR



YG

LIVING IN GERMANY

CAREER
of Education

Business & Innovation

Lifestyle and Quality

NETWORKING

Young Germany is an initiative of Germany's Federal Foreign Office and its partners. It is an English-language website which aims to inform young high potentials across the globe about their opportunities in Germany, provide a communication platform and turn their stay in Germany into a rewarding and enjoyable experience.

www.young-germany.de

YG YOUNG GERMANY